科目基									
		1		T					
科目番号		0028		科目区分		一般 / 必修			
受業形態	•	講義		単位の種別と単位数	学修単位:	単位: 2			
開設学科	ļ	システ ス)	ム	対象学年	専2	専2			
記期		前期		週時間数	2				
教科書/教		配布教	材・プリント						
⊒当教員		松井 真	通希子						
到達目									
3. 地域	の文化と歴	概念を理解 史的に概観 史を理解し	し、説明することができる。 する中で、自分自身の立ち位置を明確に 、その課題を分析することができる。	することができる。					
<u>レーフ</u>	リック					Trans			
			理想的な到達レベルの目安(優)	標準的な到達レベル	の目安(艮)	未到達レベルの目安(不可)			
評価項目1			「文化」の語の概念を理解し、類似した概念との違いを明確にしながら説明できる。	「文化」の語の概念 明できる。	を理解し、説	「文化」の語の概念を理解していない。			
評価項目2			文化の諸相を歴史的に概観する中で、自分自身の立ち位置を明確にすることができる。	文化の諸相を歴史的明することができる		文化の諸相を理解していない。			
評価項目3			地域の文化と歴史を踏まえて課題 を分析し、解決策を考察すること ができる。	地域の文化と歴史を 課題を分析すること		地域の文化と歴史を理解していない。			
	到達目標	項目との	!	1		1			
	连(a)JAB								
			ム学習・教育目標 A-1 システム創成工	学教育プログラム学習	・教育目標 A-2	2			
教育方:	法等								
		現代世	界の社会関係は、文化や経済の繋がりが	地球的な規模にまで加え	がり、より多属	層になっている。その一方で、グ□ ト 目 声 L が色がわている			
既要		そこで	ゼーションの進行に伴う文化の均質化と 本講義では、多様化する社会の中で自身	.多様性の喪失が懲念で の立脚点を確立するこ	され、その尊里で ことを目的として	こ見回しか思かれている。 て、人文学の観点から文化の伝播や			
		交流の	た時後にないる。 禁相を歴史的に概観する。 様々な地域の歴史と文化の理解を通じて、地域と世界を同時にみつめていくことの重要性について理解する。						
受業の進	め方・方法	別講義	テーマに応じて協定校や学内外から様々 については小レポートを課す。講義を踏 地域の文化施設や歴史遺産を見学するフ	まえて特定地域の文化	と・歴史を調べ、	ムー/ ハルムのスネモ大肥する。 レポートを作成する。講義の中で			
			地域の文化施設や歴史遺産を見字するフ 目:地理、歴史、政治経済、公共、現代						
主意点			曰:地理、歴史、政冶経済、公共、現代 針:授業をよく聞くこと。レポートの課	性云C広、型瑰子、/	\间垛児子、抆(
		חים יו	<u>到 「技未でよく聞くこと。レハートの</u> 話	題を出すので期日や人	レールを遵守する	ること。			
		自己学	到:投業をよく聞くこと。レバードの課 習:授業時間以外でも予習・復習を行う	題を出すので期日やり こと。学習目的を達成	レールを遵守する なするために、記	ること。			
	位の履修	自己学 上の注意	習:授業時間以外でも予習・復習を行う	題を出すので期日や) こと。学習目的を達成	レールを遵守する 対するために、 <u>i</u>	ること。			
予習・復	習を行うと	自己学 上の注意 ともに、指	習:授業時間以外でも予習・復習を行う 示されるレポート課題に取り組むこと。	題を出すので期日や) こと。学習目的を達成	レールを遵守する 找するために、 <u>[</u>	ること。			
予習・復		自己学 上の注意 ともに、指	習:授業時間以外でも予習・復習を行う 示されるレポート課題に取り組むこと。	題を出すので期日や月こと。学習目的を達成	レールを遵守する 找するために、 <u>[</u>	ること。			
予習・復 受業の	習を行うと	自己学 上の注意 ともに、指 修上の区	習:授業時間以外でも予習・復習を行う 示されるレポート課題に取り組むこと。	題を出すので期日や) こと。学習目的を達成 ② 遠隔授業対応	レールを遵守する なするために、 <u>i</u>	ること。			
P習・復 受業の I アクラ	習を行うと 属性・履 ティブラー:	自己学 上の注意 ともに、指 修上の区	習:授業時間以外でも予習・復習を行う 示されるレポート課題に取り組むこと。 分	こと。学習目的を達成	レールを遵守する 対するために、	ること。 果題やレポート提出を求める。			
F習・復 受業の アクラ	習を行うと 属性・履 ティブラー:	自己学 上の注意 ともに、指 修上の区 こング	習:授業時間以外でも予習・復習を行う 示されるレポート課題に取り組むこと。 分 □ ICT 利用	□ ② 遠隔授業対応	求するために、 言	ること。 果題やレポート提出を求める。			
習・復 受業の 」アクラ	習を行うと 属性・履 ティブラー:	自己学 上の注意 ともに、指 修上の区 ニング	習:授業時間以外でも予習・復習を行う 示されるレポート課題に取り組むこと。 分	② 遠隔授業対応	ださるために、言	ること。 果題やレポート提出を求める。			
習・復 受業の 」アクラ	習を行うと 属性・履 ティブラー:	自己学 上の注意 ともに、指 修上の区 ニング 週 1週	習:授業時間以外でも予習・復習を行う 示されるレポート課題に取り組むこと。 分	② 遠隔授業対応 週. 講	或するために、 ごとの到達目標 義の目的・概要	ること。 果題やレポート提出を求める。 □ 実務経験のある教員による授 を理解し、説明できる。			
予習・復 受業の] アクラ	習を行うと 属性・履 ティブラー:	自己学 上の注意 ともに、指 修上の区 ニング 週 1週 2週	習:授業時間以外でも予習・復習を行う 示されるレポート課題に取り組むこと。 分	□ 遠隔授業対応 週 週 講	ごとの到達目標 義の目的・概要 文化」の概念が	ること。 果題やレポート提出を求める。 □ 実務経験のある教員による授 を理解し、説明できる。 説明できる。			
F習・復 受業の アクラ	習を行うと 属性・履 ティブラー:	自己学 上の注意 ともに、指 修上の区 ニング 週 1週 2週 3週	習:授業時間以外でも予習・復習を行う 示されるレポート課題に取り組むこと。 分	□ 遠隔授業対応 週. 講:	ごとの到達目標 義の目的・概要 文化」の概念が 文学の歴史の概	ること。 果題やレポート提出を求める。 □ 実務経験のある教員による投 を理解し、説明できる。 説明できる。 略が説明できる。			
予習・復 受業の] アクラ	習を行うと 属性・履 ティブラー:	自己学 上の注意 ともに、指 修上の区 ニング 週 1週 2週 3週 4週	習:授業時間以外でも予習・復習を行う 示されるレポート課題に取り組むこと。 分 □ ICT 利用 授業内容 ガイダンス 人間と文化 学問の歴史① 学問の歴史②	② 遠隔授業対応 週. 講. 「.	ごとの到達目標 義の目的・概要 文化」の概念が 文学の歴史の概 文学の歴史の概	ること。 果題やレポート提出を求める。 □ 実務経験のある教員による投 を理解し、説明できる。 説明できる。 略が説明できる。 略が説明できる。			
予習・復 受業の] アクラ	習を行うと属性・履ティブラー3	自己学 上の注意 ともに、指 修上の区 ニング 週 1週 2週 3週 4週 5週	習:授業時間以外でも予習・復習を行う 示されるレポート課題に取り組むこと。 分 「ICT 利用 授業内容 ガイダンス 人間と文化 学問の歴史① 学問の歴史② 原典と翻訳	② 遠隔授業対応 週 講 「「	ごとの到達目標 義の目的・概要 文化」の概念が 文学の歴史の概 文学の歴史の概 訳作業の概略が	ること。 果題やレポート提出を求める。 □ 実務経験のある教員による技 を理解し、説明できる。 説明できる。 略が説明できる。 略が説明できる。 さればいできる。 さればいできる。			
F習・復 受業の アクラ	習を行うと属性・履ティブラー3	自己学 上で表現である。 1週 2週 3週 4週 5週 6週	習:授業時間以外でも予習・復習を行う 示されるレポート課題に取り組むこと。 分	□ 遠隔授業対応 □ 遠隔授業対応 □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □	ごとの到達目標 義の目的・概要 文化」の概念が 文学の歴史の概 文学の歴史の概 文学の歴史の概 文学の歴史の概 対学と解釈学の	ること。 果題やレポート提出を求める。 □ 実務経験のある教員による技 を理解し、説明できる。 説明できる。 略が説明できる。 略が説明できる。 略が説明できる。 概略が説明できる。			
P習・復 受業の I アクラ	習を行うと属性・履ティブラー3	自己学 上ともに、区 として 1週 2週 3週 4週 5週 7週	習:授業時間以外でも予習・復習を行う 示されるレポート課題に取り組むこと。 分 □ ICT 利用 授業内容 ガイダンス 人間と文化 学問の歴史① 学問の歴史② 原典と翻訳 文献学と解釈学 漢字文化圏	② 遠隔授業対応 週週 講 「 人 人 翻	ごとの到達目標 義の目的・概要 文化」の概念が 文学の歴史の概 文学の歴史の概 文学の歴史の概 文学の概略が 就学と解釈学の 字文化圏の概略	ること。 果題やレポート提出を求める。 実務経験のある教員による技 を理解し、説明できる。 説明できる。 略が説明できる。 略が説明できる。 説明できる。 説明できる。 被が説明できる。 が説明できる。 が説明できる。 が説明できる。			
F習・復 受業の アクラ	習を行うと属性・履ティブラー3	自己学 上ともに、指 修上の区 コング 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週	習:授業時間以外でも予習・復習を行う 示されるレポート課題に取り組むこと。 分 「ICT 利用 授業内容 ガイダンス 人間と文化 学問の歴史① 学問の歴史② 原典と翻訳 文献学と解釈学 漢字文化圏 日本漢学史	② 遠隔授業対応 週 調	ごとの到達目標 義の目的・概要 文化」の概念が 文学の歴史の概 文学の歴史の概 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、	ること。 果題やレポート提出を求める。 実務経験のある教員による技 を理解し、説明できる。 説明できる。 略が説明できる。 略が説明できる。 説明できる。 が説明できる。 が説明できる。 が説明できる。 が説明できる。 が説明できる。			
P習・復 受業の I アクラ	習を行うと属性・履ティブラー3	自己学 上ともに、区 として 1週 2週 3週 4週 5週 7週	習:授業時間以外でも予習・復習を行う 示されるレポート課題に取り組むこと。 分 □ ICT 利用 授業内容 ガイダンス 人間と文化 学問の歴史① 学問の歴史② 原典と翻訳 文献学と解釈学 漢字文化圏	② 遠隔授業対応 週週 講 「 人 人 翻	ごとの到達目標 義の目的・概要 文化」の概念が 文学の歴史の概 文学の歴史の概 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、	ること。果題やレポート提出を求める。 果題やレポート提出を求める。 □ 実務経験のある教員による技 を理解し、説明できる。 略が説明できる。 略が説明できる。 略が説明できる。 説明できる。 が説明できる。 が説明できる。 が説明できる。 が説明できる。 が説明できる。 が説明できる。			
· 後 受業の 』アクラ	習を行うと属性・履ティブラー3	自己学 上ともに、指 修上の区 コング 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週	習:授業時間以外でも予習・復習を行う 示されるレポート課題に取り組むこと。 分 「ICT 利用 授業内容 ガイダンス 人間と文化 学問の歴史① 学問の歴史② 原典と翻訳 文献学と解釈学 漢字文化圏 日本漢学史	② 遠隔授業対応 週週 講 「: 人、人 類	だするために、言 ごとの到達目標 義の目的・概念が 文学の歴史の概 文学の歴史の概 文学の歴史の概 文学の歴史の概 対学文化圏の概略 子文化圏のの概略 子文化圏のの概略 本漢学美報の概略 はいまする。 はいまする。 はいまする。 はいまする。	ること。 果題やレポート提出を求める。 □ 実務経験のある教員による授 を理解し、説明できる。 略が説明できる。 略が説明できる。 略が説明できる。 ・			
· 後 受業の 』アクラ	習を行うと属性・履ティブラー3	自己学 上ともに、指 修上の区 ことが 週 1週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週	習:授業時間以外でも予習・復習を行う 示されるレポート課題に取り組むこと。 分 □ ICT 利用 授業内容 ガイダンス 人間と文化 学問の歴史① 学問の歴史② 原典と翻訳 文献学と解釈学 漢字文化圏 日本漢学史 文化の諸相 文化の諸相	② 遠隔授業対応 週週 講 「人人人翻」 文演 実 日 特解	できるために、言なするために、言ない。 ごとの到達目標 義の目的・概念が 文学の歴史の概なで、 文学の歴史の概略で、 文学の歴史の概略で、 文学文化圏の概略で、 子文化圏の概略で、 できず、表明である。 できじさる。 のは、記載できじきる。 のは、記載できる。 のは、記載できる。 のは、記載できる。 のは、記載できる。 のは、記載できる。 のは、記載できる。 のは、記載できる。 のは、記載できる。 のは、記載できる。 のは、記載できる。 のは、記載できる。 のは、こる。	ること。 果題やレポート提出を求める。 □ 実務経験のある教員による技 を理解し、説明できる。 説明できる。 略が説明できる。 略が説明できる。 機略が説明できる。 が説明できる。 が説明できる。 が説明できる。 が説明できる。 が説明できる。 、歴史・文化の多様性と重要性を言。			
予習・復 受業の ☑ アクラ	習を行うと属性・履ティブラー3	自己学生ともに、区では、	習:授業時間以外でも予習・復習を行う 示されるレポート課題に取り組むこと。 分	② 遠隔授業対応 週 講 「 人人 翻 文 漢 日 特解 特解	できるために、記述するために、記述するために、記述との到達 はの到達 はののでは、できるのでは、できるでは、できるでは、できるでは、できるでは、できるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるで	ること。 果題やレポート提出を求める。 □ 実務経験のある教員による接 を理解し、説明できる。 略が説明できる。 略が説明できる。 略が説明できる。 が説明できる。 が説明できる。 が説明できる。 が説明できる。 が説明できる。 、歴史・文化の多様性と重要性をす。 、歴史・文化の多様性と重要性をす。			
予習・復 受業の	習を行うと属性・履ティブラー3	自己学生ともに、区で上の区では、	習:授業時間以外でも予習・復習を行う 示されるレポート課題に取り組むこと。 分 □ ICT 利用 授業内容 ガイダンス 人間と文化 学問の歴史① 学問の歴史② 原典と翻訳 文献学と解釈学 漢字文化圏 日本漢学史 文化の諸相 文化の諸相 文化の諸相	□ ② 遠隔授業対応 週 講 「 人人 翻	成するために、言 ご義文文文文演講、講、講、講、講、講、講、講、講、講、講、講、講説、講説、講説、講説、講説、講	ること。 果題やレポート提出を求める。 □ 実務経験のある教員による技 を理解し、説明できる。 説明できる。 略が説明できる。 略が説明できる。 略が説明できる。 が説明できる。 が説明できる。 が説明できる。 が説明できる。 が説明できる。 が説明できる。 、歴史・文化の多様性と重要性をする。 、歴史・文化の多様性と重要性をする。 、歴史・文化の多様性と重要性をする。 、歴史・文化の多様性と重要性をする。 、歴史・文化の多様性と重要性をする。			
予習・復 受業の ☑ アクラ	図を行うと 属性・履 ティブラー: 画 1stQ	自己学生ともに、区では、	習:授業時間以外でも予習・復習を行う 示されるレポート課題に取り組むこと。 分	□ ② 遠隔授業対応 □ 週 講 □ 人 人 翻 文 漢 日 特解	成する で養文文文文訳献字本別し別し別し別し別し別しのの歴史とののとのの歴史と化学義説義説義説義説義説義説義説義説義説義説義説義説義説義説義説義説義説義説義説	ること。 果題やレポート提出を求める。 □ 実務経験のある教員による技 を理解し、説明できる。 略が説明できる。 略が説明できる。 略が説明できる。 一般略が説明できる。 が説明できる。 が説明できる。 が説明できる。 が説明できる。 が説明できる。 を歴史・文化の多様性と重要性をきる。 、歴史・文化の多様性と重要性をきる。 、歴史・文化の多様性と重要性をきる。 、歴史・文化の多様性と重要性をきる。 、歴史・文化の多様性と重要性をきる。 、歴史・文化の多様性と重要性をきる。 、歴史・文化の多様性と重要性をきる。 、歴史・文化の多様性と重要性をきる。 、歴史・文化の多様性と重要性をきる。			
予習・復 受業の ☑ アクラ	図を行うと 属性・履 ティブラー: 画 1stQ	自己学 1 自己学 1 ともにの区 1 週 1 3 週 1 3 週 1 5 週 1 8 週 1 1 3 週 1 1 3 週 1	習:授業時間以外でも予習・復習を行う 示されるレポート課題に取り組むこと。 分 □ ICT 利用 授業内容 ガイダンス 人間と文化 学問の歴史① 学問の歴史② 原典と翻訳 文献学と解釈学 漢字文化圏 日本漢学史 文化の諸相 文化の諸相 文化の諸相 文化の諸相	□ ② 遠隔授業対応 週 講 「人人 翻 文 漢 日 特解	なするででである。 で養文文文訳献字本別し別し別し別し別し別し、 で養文文文文訳献字本別し別し別し別し別し別しののとののででででででででででででででででででででででで	ること。 果題やレポート提出を求める。 □ 実務経験のある教員による技 を理解し、説明できる。 略が説明できる。 略が説明できる。 略が説明できる。 が説明できる。 が説明できる。 が説明できる。 が説明できる。 が説明できる。 が説明できる。 が説明できる。 、歴史・文化の多様性と重要性を3。 、歴史・文化の多様性と重要性を3。 、歴史・文化の多様性と重要性を3。 、歴史・文化の多様性と重要性を3。 、歴史・文化の多様性と重要性を3。 、歴史・文化の多様性と重要性を3。			
予習・復 受業の ② アクラ	図を行うと 属性・履 ティブラー: 画 1stQ	自己意 自己意 上ともにの区 上ともにの区 1週 2週 3週 4週 5週 7週 8週 9週 10週 11週 13週 14週	習:授業時間以外でも予習・復習を行う 示されるレポート課題に取り組むこと。 分 □ ICT 利用 授業内容 ガイダンス 人間と文化 学問の歴史① 学問の歴史② 原典と翻訳 文献学と解釈学 漢字文化圏 日本漢学史 文化の諸相 文化の諸相 文化の諸相 文化の諸相 文化の諸相 文化の諸相	□ ② 遠隔授業対応 週 講 「人人 翻 文 漢 日 特解	なするででである。 で養文文文訳献字本別し別し別し別し別し別し、 で養文文文文訳献字本別し別し別し別し別し別しののとののででででででででででででででででででででででで	ること。果題やレポート提出を求める。 □ 実務経験のある教員による授 を理解し、説明できる。 略が説明できる。 略が説明できる。 略が説明できる。 が説明できる。 が説明できる。 が説明できる。 が説明できる。 が説明できる。 が説明できる。 、歴史・文化の多様性と重要性を 。			

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週			
評価割合										
	其	朋末レポート		小レポート	合計					
総合評価割合	5	0		50	100					
基礎的能力	5	0		50	100					